



Basic &amp; New

2-T-120B00134

日本ペイント株式会社

## 塗装仕様書 &lt; 塗替え &gt;

適用部位 鋼構造物全般

工程	塗料名	使用量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね 乾燥時間 (23 )	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法	膜厚/回
下地調整	ブラストでISO Sa2 1/2まで除錆する。						
下塗り 1	水性ジンキー8000HB(新) (非危険物水性厚膜形有機ジンクリッチペイント)	0.25	16時間以上 10日以内	水道水	0~5	はけ、ローラー	40μm
		0.60					エアレス スプレー
下塗り 2	水性ハイボン20 (非危険物水性変性エポキシ樹脂下塗り塗料)	0.20	4時間以上 10日以内	水道水	0~5	はけ、ローラー	50μm
		0.23					エアレス スプレー
中塗り	水性デュフロン1000中塗 (非危険物水性ふっ素樹脂塗料用中塗り塗料)	0.14	4時間以上 10日以内	水道水	0~10	はけ、ローラー	30μm
		0.17					エアレス スプレー
上塗り	水性デュフロン1000上塗 (非危険物水性ふっ素樹脂上塗り塗料)	0.12	4時間以上 10日以内	水道水	0~5	はけ、ローラー	25μm
		0.14					エアレス スプレー

- ・上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。
- ・塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間を守ってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

塗料名	容 量	混 合 比	ポットライフ
【3液】水性ジンキー8000HB(新)	7kg Set(塗料液(主剤):硬化剤=4kg:3kg)	4:3	5時間(23 )
水性ハイボン20	20kg Set(塗料液:硬化剤=18kg:2kg)	9:1	6時間(23 )
水性デュフロン1000中塗	20kg Set(塗料液:硬化剤=18kg:2kg)	9:1	6時間(23 )
水性デュフロン1000上塗	16kg Set(塗料液:硬化剤=14kg:2kg)	7:1	6時間(23 )

- ・2液形塗料は、塗料液と硬化剤の混合割合を必ず守り、ポットライフ(可使用時間)以内に使用してください(硬化剤の過不足や、ポットライフ(可使用時間)以降の使用は、硬化性、乾燥性、低汚染性能、色相変化が起こるなど、塗膜性能や仕上がり外観に悪影響を及ぼします)。

## 施工上の要点・注意事項

### 【下塗り(【3液】水性ジンキー8000HB(新))】

- ・貯蔵はよく蓋をし、直射日光を避けてください。塗料液・硬化剤は直射日光に長く当たると缶内にて塗料が乾燥し、皮張りが発生する恐れがあります。また、40℃以下、0℃以上の場所で貯蔵してください。塗料液・硬化剤は0℃以下の場合凍結する恐れがあります。
- ・かくはんはディスパーで行ってください。
- ・塗料液は温度によっては粘度が高くなります。特に冬季のご使用時には天板を切ってご使用ください。
- ・硬化剤は静置していると、ゼリー状で流動性がないように見えますが、缶を振ったり攪拌すると流動性が発現します。異常ではありません。使用時は、しっかりと蓋をし、蓋が外れないように缶を十分に振って流動性が出てから容器口からそそぐか、天板を切り開封し、取り出すようにしてください。
- ・調合後や塗装中に沈殿や塊が見られた場合は、均一になるまでかくはんを行ってください。
- ・塗装する時、まず希釈なしで塗装してください。粘度が高く、塗装しにくい時は、希釈剤を用いて希釈してください。また、少量の希釈でも粘度が大きく低減します。希釈するときは粘度変化に十分注意して、少しずつ希釈するようにしてください。5%を超えての希釈は厳禁です。
- ・動物刷毛は、刷毛が固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロン刷毛をご使用ください。
- ・塗装環境条件によっては、塗装後、塗膜表面にさびが浮いたような現象が生じる可能性があります。塗膜性能に問題はありませぬ。そのような時は念のため面粗しをおこない、下塗り塗料を塗り重ねてください。
- ・ニッペ水性防食システムの仕様で塗装してください。

### 【下塗り(水性ハイボン20)】

### 【中塗り(水性デュフロン100中塗)】

- ・缶の底部に沈殿物がありますので十分かくはんし均一に分散させながら塗装してください。
- ・硬化剤を予めよく振ってから混合してください。
- ・上塗りを塗り重ねる場合、夏場連続して直射日光にさらされる場合は5日以内に塗り重ねてください。5日を超える場合は、面荒しを行ってください。

### 【上塗り(水性デュフロン100上塗)】

### 【仕様全般】

- ・塗り重ね日数がオーバーした場合、ペーパー掛け、シンナー拭きなどで面粗ししてから塗り重ねてください。
- ・被塗物が結露などで濡れている場合は塗装を避けるか、十分水分を除去してから塗装を実施してください。
- ・使用前、充分かくはんしてください。
- ・開缶後は皮張りがしやすいため、表面にうすく希釈剤を張り、ふたをしておくと、皮張りを遅くすることができます。
- ・水による希釈割合は、必ず5%以下としてください。希釈しすぎるとダマりやすくなります。
- ・塗装する時、まず希釈なしで塗装して下さい。粘度が高く、塗装しにくい時は、希釈剤を用いて希釈して下さい。
- ・塗装場所の気温が5℃以下、湿度85%以上、また換気が十分でなく結露が考えられる場合は塗装を避けてください。
- ・塗装終了後、4時間以内に気温が5℃以下に下がる事が想定される場合、塗装を避けてください。
- ・この塗料は増粘しにくいいため、可使時間の管理を時刻で行ってください。可使時間を過ぎた塗料は使用しないでください。
- ・外部の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・飛散した時は、速やかに希釈剤などを使って拭き取ってください。
- ・水性で2液硬化反応形のため、一般の刷毛は固まったり、ダマになりやすいので、できるだけ水性塗料反応硬化用刷毛(例えば、大塚刷毛製 水星 など)をご使用下さい。
- ・塗装後短期のうちに、降雨や結露など、水分の影響を受けると白化することがあり、このような白化面にそのまま塗り重ねると層間付着性が悪く、はく離するおそれがありますので、ペーパー掛け、シンナー拭きなどで白化した層を除去してください。
- ・乾燥条件によっては塗膜に粘着を感じられることがあります。時間とともに粘着感はなくなります。
- ・一度に厚塗りすると、乾燥不良となり、種々の問題を起こしますので、適正な膜厚で塗装してください。
- ・反応硬化タイプですので、必ず、その日にハケ等の洗浄を終えてください。
- ・洗い溶剤は基本的に水道水ですが、落ちにくいときは、温流水・せっけんで洗い、なおも落ちにくいときは、水気をきった後にラッカーシンナーをご使用ください。

- ・新設垂鉛面・コンクリート・没水部への適用は避けてください。
- ・中・上塗りには、水性塗料をご使用ください。
- ・没水部などへの適用は避けてください。
- ・作業前に容器に記載している「安全衛生上の注意事項」をご参照ください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品安全に関する詳細な内容は安全データシート(SDS)をご参照ください。

本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved.

この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。